

議会報

飯南

いinan

第76号
令和6年1月19日

- 2 年頭のあいさつ
決算審査報告
- 3 12月議会報告
可決した主な議案
令和5年度各会計補正予算
- 4-12 一般質問
- 13 討論／採決の結果
- 14 常任委員会報告／全員協議会の議題
- 15 常任委員会報告／議会活動報告
- 16 明日を拓く



年頭のごあいさつ

飯南町議会議長 早樋 徹雄



明けましておめでとうございます。町民の皆様には穏やかに新年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

平素は、議会活動に対しましてご理解、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は長期間にわたり大きな影響を与えましたが、昨年5月に分類が変更され、様々な活動も以前に戻りつつあり安堵をしております。しかし、世界情勢はウクライナや中東の問題など憂慮すべき状況が続き、物価高騰など日常生活にも大きな影響を受けております。

世界の平和を願うとともに、町民の皆様の負託にこたえるべく全力を尽くしてまいります。一層のご協力をお願いいたします。

町民の皆様のご健勝と本年が希望に満ちた年になりますようご祈念申し上げご挨拶いたします。

令和5年 12月定例会を終えて

12月5日から15日までの11日間で開催

電力・ガス・食料品等の価格高騰による影響が特に大きい住民税非課税世帯等に対し、世帯当たり7万円を支給する。また、生活者支援として、全町民に7000円分の生活応援ポイントを付与する予算を可決した。

一般質問は議長を除く全議員が登壇した。

定例会最終日には赤来中学校3年生が議会を傍聴した。議場の緊張を感じ、自分たちの暮らしに関わることを決めるのが議会だと知る機会になったようだ。



赤来中学校3年生が議会を傍聴

決算審査報告

決算審査特別委員会

委員長 景山 登美男

審査の対象

- 令和4年度飯南町一般会計歳入歳出決算書
- 令和4年度飯南町国民健康保険事業外2件の特別会計歳入歳出決算書
- 令和4年度飯南町病院事業会計、飯南町簡易水道事業会計及び飯南町下水道事業会計各決算書

審査意見

定住促進住宅整備事業、災害復旧事業、繰上償還などが増額となったものの、社会資本整備総合交付金事業を抑制したことにより昨年度と比較し歳出は減少となっている。

財政健全化法に定める指標のうち、実質公債費比率は9.3%、将来負担比率は44.9%と、いずれも早期健全化基準を下回ってはいるが、今後も限られた財源のもとで、的確な予算編成、効率的かつ効果的な予算執行に努め、引き続き財政の健全化に取り組ま

町債について

令和4年度末の町債残高は102

億8500万円であるが、繰上償還を実施したこと、町債発行額を抑制したことにより、前年度末に比べ6億4100万円減少している。

今後も繰上償還を適切な規模で継続して実施するとともに、計画的な事業執行に努められたい。

繰越事業について

発注方法を検討するとともに、適正な業務執行の徹底に努められたい。

事務事業実施の見直しについて

住宅などの設計業務については、本町の自然・気候、風土などを熟知した業者へ委託するよう検討されたい。公共施設等の維持管理については、担当課を明確にして遂行されたい。

EV充電設備の整備について

道の駅赤来高原に設置されている電気自動車充電設備が使用できなくなっている。国においては温暖化対策の一環として、電気自動車の普及に取り組んでいる。

国の補助事業を活用し、早急に整備されたい。

可決した主な議案

認定

令和4年度飯南町一般会計、各特別会計歳入歳出決算及び各公営企業会計決算の認定

条例関係

飯南町定住促進賃貸住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定など6件

予算

令和5年度飯南町一般会計補正予算(第5号)など13件

令和5年度 各会計補正予算

電気・ガス等価格高騰が家計に与える影響が特に大きい低所得者世帯への給付金4408万円の増額、電算システム標準化対応業務のための負担金2170万円の増額、6～7月の大雨災害に伴う災害復旧費9142万円の増額、給与改定による人件費2071万円の増額、生活者支援のための応援ポイント付与3314万円の増額など

一般会計 2億2990万円 増額

会計名	補正予算額	予算総額	
一般会計	2億2990万円	79億4726万円	
特別会計	国民健康保険事業	△309万円	6億5825万円
	後期高齢者医療事業	250万円	1億8631万円
	介護保険サービス事業	54万円	3757万円
病院事業会計	1080万円	16億1766万円	
簡易水道事業会計	5936万円	4億4180万円	
下水道事業会計	473万円	5億2202万円	

一般 質問

令和5年 12月定例会



学校給食無償化進めよ

伊藤 好晴 議員

Q 国に強く求めて

国は「こども未来戦略方針」で、「学校給食費の無償化の成果・課題や実態調査を速やかに行う」ことを明記した。調査結果を分析し、無償化につなげる考えと思われる。これを待たずに、無償化に取り組みべきと考えます。

学校給食法は、施行70年目を迎え、食育や貧困対策を念頭に直しが求められる。国が三食のうち一食に責任を持つ給食無償化は時代の要請にもかなう。本町でも、給食無償化に取り組み時期に来ていると考え、改めて見解を問う。

同法2条に、学校給食の目標が7項目謳われている。法律で定める以上、当然国において無償化に取り組むべきである。

無償化を国に強く求めるべきで、町長の見解を求める。

A 引き続き検討

町長塚原隆昭

事業の継続性、財政負担を総合的に判断し、国の動向を見守り、引き続き検討する。(国要望は)全国町村会で歩調を合わせ行っていく。



A 国の動向を見守る

教育長大谷哲也

(諸物価高騰の折り)給食費の保護者負担を増やすことなく、魅力的な給食を継続しつつ国の動向を見守る。

有害鳥獣対策への支援は

内藤 眞一 議員



Q 捕獲状況はどうか

今年のクマの目撃情報は9月時点で8件だったが、その後何件に増加したか。また、令和4年の有害鳥獣の捕獲状況は、イノシシ658頭、シカ115頭、クマは錯誤捕獲9頭ということだったが、今年の捕獲状況は。

A 昨年より減少傾向

町長塚原隆昭

クマは更に5件目撃された。有害鳥獣は10月末時点でイノシシ363頭、シカ63頭。クマの錯誤捕獲は11月末で5頭となっている。捕獲数は昨年より減少傾向だが、個体数が減少しているとは言えないと思う。

Q クマの指定管理鳥獣への要望は

今年は東北を中心に連日クマの目撃や被害の報道がある。被害多発を受け、11月13日に東北6県と北海道、新潟県知事による「北海道東北知事会」が環境省を訪れ、クマを「指定管理鳥獣」に指定するよう要望された。

11月17日には、浜田市金城町でも新聞配達中の男性がクマと遭遇し負傷された。島根県でも指定要望への動きはあるのか。

A 特定鳥獣管理計画で管理を実施中

町長塚原隆昭

県内のツキノワグマは、「西中国地域個体群」として指定があり、島根・広島・山口の3県で共同し特定鳥獣管理計画を策定。被害防除や科学的な管理を実施している。3県で協議の上、検討していくつもり。

Q 防護柵設置支援を

9月議会において、平成28年度から令和2年度にかけて国の補助事業で、ワイヤーメッシュ柵120キロメートル、電気柵110キロメートル、箱わな157基が設置されており、イノシシのみでなく、シカ、クマについても効果があったとの答弁だった。



錯誤捕獲されたクマ

A 交付金事業再開などで対策

町長塚原隆昭

これらの設置は、中山間地域等直接支払制度を利用している団体等によるもので、個人農地などは対象とならなかった。防護柵の未設置箇所がなくなれば、鳥獣やクマの侵入が減少する。個人農地にも補助し追加設置を進めてはどうか。

国の補助事業を活用して、要望があった中山間地域等直接支払制度の協定組織に対して、防護柵の支援を行っていたが、令和3年度以降は休止している。交付金事業の再開については、要望を取りまとめ、優先順位をつけながら対策を講じていく考え。個人農地など全ての要望に応えていくことは難しい。

Q HPVワクチン接種促進・周知を

HPVワクチン接種は大いに推奨され、無償で接種されていた時期があったが、副反応の報告が相次ぎ、中止された。

その後、副反応のリスクより子宮頸がん予防のほうが大きいとされ、2022年4月に無償接種が再開されたが、無償接種になったことを知らない人が多く、専門家も周知不足を指摘している。積極的な情報発信を求める。HPVは性交渉を通して感染することが殆どで、接種する男性が増えれば、パートナーを守ることもつながる。女性への周知に併せ、男性にも周知することが重要と考え、答弁を求める。

A ホームページに掲載

町長塚原隆昭

定期接種の対象になる人には、本年6月直接通知した。キャッチアップ接種(※)の方にも文書で案内した。(定期接種について)ホームページに掲載しているが、それを見に行ってもらおう仕掛けが重要。わかりやすい情報発信が必要なので、きちんと心がける。

※キャッチアップ接種：HPVワクチンの定期接種の対象年齢(小学校6年から高校1年相当)の間に接種を逃した方に、あらためてHPVワクチンの接種の機会を提供すること。

このほかに、町内いじめ問題についての質問がありました。



一般質問

令和5年 12月定例会

任期最終年での進捗は

高橋 英次 議員



Q 町政の方針を問う

令和3年度第2回飯南町議会での所信表明では、町政運営の基本姿勢が述べられている。

●「小さな田舎からの生命地域宣言」の基本理念を基にしたまちづくりを引き継ぐ。
●「第2次総合振興計画後期計画」に掲げた事業を確実に進めていく。

●「守らなければいけないもの、伸ばしていくもの、そして見直しや縮小廃止するもの」を整理していく。と述べ、続いて5項目の重点目標を掲げている。

①「子どもたちの声が聞こえるまちづくり」

②「安心安全なまちづくり」

③「産業が元気なまちづくり」

④「定住を進めるまちづくり」

⑤「歴史・文化を感じるまちづくり」

前半4項目においては、総じて率先に事業が推進されているが、5番目の「歴史・文化を感じるまちづくり」については、少し取り残されていると感じる。

いると感じる。

1期4年の集大成として「守らなければならぬもの、伸ばしていくもの、そして見直しや縮小廃止するもの」を含め、これからの町政の取り組みと方針を伺う。

A 目標達成に全力で

町長塚原隆昭

就任時に述べた「守らなければいけないもの、伸ばしていくもの、そして見直しや縮小廃止するもの」は、まちづくりの指針である「第2次総合振興計画後期計画」を着実に進めるため、財政規律を



衣掛山から望む庁舎周辺

守りながら事業の取捨選択・優先順位をつけていくとの思いからの発言であった。
公約の5つの重点施策が、守るべきもの、伸ばしていくものとして力を入れてきた。
廃止・縮小では2課を減らし、まちづくり推進課を設け、内室を設置し、行政組織のスリム化を図った。

現在、公共施設総合管理計画に基づき、指定管理施設の廃止・譲渡を進めているが、廃止・譲渡見直しは積極的には進めることができず、廃止縮小の難しさを改めて感じている。

指摘があった「歴史文化を感じるまちづくり」では、本物の芸術文化に触れる機会を増やし、受け継がれてきた有形無形の文化財の再認識と、匠の技術を後世にしっかりと引き継ぐとの思いで進める。

残り1年、コロナや災害を理由に「できなかった」と言い訳しないよう、目標達成に向け、ラストスパートを全力で努力する。

地球温暖化対策は

景山 登美男 議員



Q 町民に何を求める

本町は本年3月、国内で82番目の地方公共団体として、2050年の温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言した。

現在策定中の「飯南町地球温暖化対策実行計画」では、町民にどう関わってもらうのか、何に取り組んでもらうのかが明確になっ

ている。脱炭素社会の実現は、町民・事業者・行政が一体となって取り組むことが必要である。

日常生活で使用するエネルギーを見直すことが、脱炭素社会化につながるという観点から、町民に求める取り組みを問う。

A 機運を醸成

町長塚原隆昭

現在、策定委員会で議論している最中で、新たな取り組みについて示すのは難しい。アンケート調査では、8割以上の方が「地球温暖化に関心がある」という回答であった。

このことから、誰もが「やらないといけない」と思うような取り組みを早い段階で示し、機運の醸成に努めたい。



脱炭素宣言

Q 避難所へ発電機を

飯南町地域防災計画においては16カ所の避難所が指定され、食料・飲料水・ベッドや毛布などの備蓄物は整備されているが、非常用電源施設が整備されているのは、ごくわずかである。

備蓄物資の中には、4台のガソリン式発電機があり、災害時の電力確保のための協定書も交わされている。しかし、予期せぬ事態で建物への電力供給が停止した場合、これだけでは十分な電力の供給はできないと思う。

せめて、地区に1カ所程度、町内の主要な避難所に非常用発電機の設置を求める。

A 優先順位つけ整備

町長塚原隆昭

現在、保健福祉センター、さつき会館および来島交流センターなどの避難所や、本庁舎、病院に非常用発電機を設置している。
また、国交省において赤



来・頼原両道の駅に、防災拠点機能強化のための自家発電装置が設置されている。

非常用電源が整備されていない施設の電力は、複数の企業との災害時協力協定により確保している。

なお、交流センターとんぼらには太陽光パネルが設置してあるので、災害時の非常用電源としては、それにより蓄電した電力を供給できる。
まだ設置されていない施設は、優先順位をつけ整備する。



「縮むまちづくり」戦略的に

戸谷 ひとみ 議員

約80億円入った町の財布の内、1億円かかっていただけのお金が4億円になるといふことは、あらゆる世代の住民に大きな影響があることだと思ふ。

教育移住をねらうためには、小学校を1校、中学校も1校にし、どこに居住しても同じ教育が受けられる環境をつくるのが大切。小中学校が一緒になった義務教育学

令和3年につくられた「学校施設の長寿命化計画」によると、平成27年度から令和元年度にかかった小中学校の施設関連経費の平均は、年間約1億円だ。

長寿命化計画には「40年で建て替える従来の修繕・改修を続けるのは不可能である」「改修による長寿命化に切り替えたとしても、投資的経費1億円に対して4倍のコストがかかるため、長寿命化だけでは今後の財政に対応できない状況である」と書かれている。

Q 学校再編を問う

校も検討するとよい。

学校の場合は、飯南高校のある来島が最適。町内各所からスクールバスを出し、小中高生が一緒に利用することで効率化が図られ、高校への通学の不便さも、ある程度解消されることが期待できる。ゆとりのない財政状況からしても、学校を統合することが必要と考える。



昨年夏に開催された住民説明会

「一般会計でみると、本町は同じ規模の団体と比較して、町民一人あたりの町債残高が約2倍ある」と、広報いなん11月号に書いてある。

町の財政状況を、検討委員や住民のみなさんに説明した上で、学校再編について話し合う必要があると考えるがいかがか。

A 財政論は別問題

教育長 大谷 哲也

教育環境基本方針検討委員会では、子どもの数とか財政論というよりは、純粹に今後の飯南町、そして子どもたちにとって、本当に理想的な教育環境は何だろうかという議論をされて、私に答申される。

答申を受けて、町長部局と教育委員会ですらに具体的な基本計画を策定する。十分な説明を行いながら計画を策定していきたい。

A 計画策定時に検討する

町長塚原隆昭

教育環境基本計画の策定時には、財源や地域の実情、施設の安全性の確保、また、通学手段などを具体的に検討し、住民の皆様や保護者の理解がいただけるよう、丁寧な説明をしながら進めたい。



一般 質問

令和5年 12月定例会

赤名地区に病院直通バスを

安部 丘 議員



Q 直通デマンドバスを

以前、赤名地区に民間医院があり、永年、地域医療に貢献されたが、令和元年に閉院された。その際に、赤名地区に出張診療所を求める声はあったが、限られた医療資源で病院機能を維持していくには新設は困難であると町も苦渋の判断をした。

今、改めて地区毎に医療機関へのアクセスをみると、頓原地区には飯南病院、来島地区には来島診療所、志々地区には志々出張診療所と病院直通のデマンドバス、小田・真木地区には来島診療所直通のデマンドバス、谷地区には出張診療所があるが、赤名地区には出張診療所も病院直通のデマンドバスもない。

バスを乗り継いでの通院は、患者にとって時間的負担も心理的ストレスも多く、他地区に比較し、明らかに不便である。

等しく医療を提供するために、赤名地区に病院直通デマンドバスを最優先で運行さ

せるべきと思うが、町長の考えは。



10人乗りのデマンドバス

A 医療機関直通便を含め見直す

町長塚原隆昭

赤名地区は国道沿いを除き病院直通バスがなく、不便を感じられていることは認識している。

誰もが医療を受けられる体制整備は重要であり、赤名地区のデマンドバスは、医療機関直通便を含め、より利用しやすい運行体系を早急に検討し改善する。

Q 自動運転赤名線 本主に必要か

利用状況を整理すると、令和4年度で延べ476人が利用、その内町民は50人程度に過ぎない。今年度はダイヤと経路を見直し改善を図ったが、9月末までで延べ216人の利用にとどまり、前年同期を下回り、住民にとって必要性に疑問符がつく状況だ。

運行開始からわずか2年ではあるが、継続するか否かの判断をすべき時期だと私は思う。町長の考えは。

A 地元住民と協議

町長塚原隆昭

町長就任時に中山間地になくしてはならない移動手段と考え導入した。地域の賑わい創出につながればと期待をしたが、想定したよりも利用が少ない。収入を補うため、町内企業から車両広告をだしていたり、改修を試みてはいるが、やはり見直しを検討する時期と考える。

赤名地区住民と意見交換しつつ、在り方を検討したい。



自動運転の車両



脱炭素宣言の今後計画は

熊谷 兼樹 議員

町長塚原隆昭
太陽光発電の現状は、積雪の多い本町は年間を通じて一定した発電量が見込めないなどが原因で、十分な費用対

A 費用対効果 見込めず頓挫

購入補助は、県内の他市町に比べ充実しているが、推進するには、安価な薪の確保が大事だ。林地残材の搬出のため補助事業も、県補助金だけでは十分ではない。林地残材の集積装置や搬出機器への補助をどう考えるか。



町内企業に設置のソーラーパネル

中干し期間の延長、バイオ炭の農地施用も一つの方法だが、ただ中干しをすればいいのか、具体的ところが分からない。

A 事例参考に研究

J-クレジットの認証を受ける方法の多角化について、牛のゲップから排出されるメタンガスで削減はすぐには難しいと思う。大規模な酪農家の協力が必要で、導入済みの事例などを参考に研究したい。

Q 二酸化炭素削減のために

Co2 排出削減の一つとして、牛のゲップを削減する効果がある、J-クレジット認証を受けた添加物が販売されている。購入支援を求めている。水稲栽培の中干し期間を延長し、バイオ炭を農地に施用すればJ-クレジット認証を得られるのか。



ほ場の中干し

J-クレジット制度・省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCo2等の排出削減量や、適切な森林管理によるCo2等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度。
バイオ炭・木材由来の黒炭・粉炭・竹炭や家畜糞尿由来のもの、もみ殻・稲わら由来のもの、下水汚泥由来のものなどがある。

一般 質問

令和5年 12月定例会

立地生かし防衛施設誘致を

安部 誠也 議員



Q 防衛予算の獲得を

国の予算は少子化対策と防衛費が増額されているが、課題であるインフラ整備の予算など縮小されている。わが町も防衛予算の獲得に取り組みべきではないか。

当面は、防災訓練などで自衛隊との交流連携を図り、災害時の防災派遣の迅速化を考えるべきでは。まずは、雲南市・奥出雲町と連携して「雲南圏域防衛協力会」の設立を考えるべきだ。設立で地元中・高校生への音楽指導・装備品の展示等のイベントの開催などが期待できる。

弾薬庫整備に、政府の概算要求では0.93兆円と聞いている。増設方針も2032年度まで130棟だ。中国地方では岡山市の三軒屋弾薬庫のみで、出雲の駐屯地も市街地に隣接して増築は無理だ。わが町は中国地方のほぼ真ん中に位置し、山林が多く良い場所であると思う。防衛省が懸念する課題は自治体の理解が必要で、過疎地域に



ぼたんまつりでの自衛隊展示車両

において国防の二役を担うべきだ。

A 雲南圏域の自治体にあり方問いてみる

町長塚原隆昭

出雲市などを調査し、防災、まちづくりなど様々な方向から雲南圏域での連携を他市町に聞いてみる。弾薬庫は思いもよらないアイデアだが、現実的には難しいと考える。本町へは水面下での話もない。

Q 温室効果ガス排出量と吸収量は

3月に「飯南町脱炭素のまじ宣言」をした。2050年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指し、脱炭素社会の実現に向けて全力で取り組むとのことだが、現在の町の温室効果ガスCo2排出量と吸収量はいくらなのか。

温暖化は将来に向け先送りできない課題だ。一番排出量の少ない家庭部門には、国や町からの補助事業があるものの、高齢者が多く進まない懸念がある。

J-クレジット認証を町有林だけでなく民有林まで広げることができないか。

A 吸収量の方が多い

まちづくり推進課長藤原清伸

Co2の排出量は年間4万8千トン、森林吸収量は年間10万1千トンで、森林吸収量が5万3千トン上回っている。

A 飯石森林組合が認証取得を検討

町長塚原隆昭

家庭では無理のない範囲で協力をお願いしたい。民有林の多くは森林組合が管理しており、森林組合がJ-クレジット認証取得に向け検討している。



J-クレジットを購入された企業

一般質問

令和5年
12月定例会

森林の積極活用を

平石 玲児 議員



Q 専門職員の増員は

飯南町の森林率は86.3%であり、地域資源の活用や環境保全は重要である。森林政策においては、町には施業監督などの権限を与えられている。

今後、森林事業はより多岐化し、高度化していくものと思われる。このため、森林行政を専門的に担当する職員「林務専門職員」を増員すべきでは。

A 職員配置は困難

町長塚原隆昭

森林環境贈与税の交付など多様化・複雑化しており、林業振興のためには林務専門職員の配置が望ましい状況だが、少ない職員数で複数業務をおこなっている。また、人事の硬直化などもあり、配置は難しい。
専門性の高い業務は県の専門職員の指導を受けながら行う。

Q 飯南・縁の森の住民への恩恵は

昨年、地域商社として株式会社飯南・縁の森が立ち上げられた。森林所有者や伐採業者、木材加工業者に対してどのような恩恵があるのか。その活動内容や実績はどのようなのがあるのか。

岡山県西栗倉村の実績事例がある「百年の森林創造事業」を参考にして体制整備、森林整備を進めたらどうか。

A 先行事例を参考に研究する

町長塚原隆昭

株式会社飯南・縁の森の活動状況は、町産材を活用した木の加工品の開発・販売にとどまっておらず、森林所有者に還元できていない。
町は、縁の森、森林組合などの関係機関とともに、西栗倉村の「百年の森林創造事業」を参考に将来展望を持つて連携してゆく。

Q 自伐型林業家の育成に地域おこし協力隊の活用は

自伐型林業は、経済的にも資源的にも持続可能な林業であり、自然環境保全型林業ともいえ、山へのダメージを最小限に抑え、山地災害の防止に寄与し、安心な住民生活にもつながる。そして、森林組合などがとりこぼした小さな土地で施業していただくことも可能である。

鳥取県智頭町では、林業を始める若者や移住者に対して町有林を無償提供している例もある。地域おこし協力

A 先進地事例学んで取り組む

町長塚原隆昭

町内の森林施業の現状は、大部分が森林組合をはじめとする事業体だ。県では森林の集約化を図り、団地化と高性能な機械の導入による効率化に取り組んでいる。

地域おこし協力隊の活用はすぐには難しいが、先進地の事例を学び林業振興を進めていきたい。



木材搬出路の整備

討論

議案第67号 飯南町議会議員の議員報酬及び費用弁償支給条例の一部を改正する条例の制定について

反対討論 伊藤好晴議員

町民生活は厳しい状況だ。本町経済や町民生活の状況を見たときに議員の期末手当を上げることは望ましくない。

賛成討論 高橋英次議員

議員報酬を上げてはいけないという風潮ができれば、次世代の皆さんの議会議員への門戸が閉ざされてしまいかねないので賛成だ。

反対討論 熊谷兼樹議員

昨今の消費資材の高騰を補填する給与を増額することは性質が違つ。町民が感じている経済状況と隔たりがあると悪い反対だ。

賛成討論 安部丘議員

物価高騰に耐えた賃上げが必要。生活水準を向上させ、消費を促進し、経済成長を促す国家政策に沿っており賛成する。

議案第73号令和5年度飯南町一般会計補正予算(第7号)

賛成討論 伊藤好晴議員

議員報酬・特別職給与が反映される本予算案に反対すべきだが、予算案には職員の給与引き上げが盛り込まれており、無下に反対できない。

賛成討論 熊谷兼樹議員

報酬増額分を受け取ることには忸怩(じくじ)たる思のだが、民主的な手続きで提案されたもので、重要な予算も含まれているので賛成。

発議第1号 現行の健康保険証の存続を求める意見書の提出について

反対討論 安部丘議員

デジタル化推進基盤のひとつで、1年以上かけ準備しており、政策変更はより混乱を招くので反対。

議案の採決結果は次のとおりです。

採決の結果 [12月定例会]

件名	結果	伊藤好晴	熊谷兼樹	内藤眞一	高橋英次	安部誠也	景山登美男	安部丘	平石玲児	戸谷ひとみ
令和4年度飯南町一般会計、各特別会計歳入歳出決算及び各公営企業会計決算の認定専決処分の承認(令和5年度飯南町一般会計補正予算(第5号))	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町定住促進賃貸住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和4年度(3災農災)災害復旧工事(146三日市頭首工)請負変更契約の締結	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和5年度飯南町一般会計補正予算(第6号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和5年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和5年度飯南町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和5年度飯南町病院事業会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和5年度飯南町簡易水道事業会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和5年度飯南町下水道事業会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町議会議員の議員報酬及び費用弁償支給条例の一部を改正する条例	可決	●	●	○	○	○	○	○	○	○
飯南町特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	可決	●	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町会計年度任用職員の報酬、費用弁償及び期末手当支給条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町国民健康保険条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
雲南広域連合規約の一部を変更する規約	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和5年度飯南町一般会計補正予算(第7号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和5年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和5年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和5年度飯南町病院事業会計補正予算(第4号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和5年度飯南町簡易水道事業会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和5年度飯南町下水道事業会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現行の健康保険証の存続を求める意見書	否決	○	●	●	●	●	●	●	●	○

【臨時会 (10月27日開催)】

飯南町定住促進賃貸住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
------------------------------------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

○:賛成 ●:反対 欠:欠席



志々小学校登校路を視察

教育経済 常任委員会

委員長：熊谷兼樹 副委員長：戸谷ひとみ
委員：伊藤好晴 内藤真一 平石玲児

常任委員会 報告

総務厚生 常任委員会

委員長：景山登美男 副委員長：安部誠也
委員：早樋徹雄 高橋英次 安部 丘



滞在型地域交流施設建設予定地を視察

令和5年度 飯南町一般会計補正予算(第6号)

農地災害復旧事業 730万円
農業用施設災害復旧事業 4752万円

6月から7月にかけて発生した豪雨災害の復旧に要する経費。特に農地水路等については、次期の作付けに支障がないよう迅速な対応を求めた。



被災した町道

町産材住宅活用促進事業 300万円

事業の申請件数増による補助金の増額。
制度の目的である町産材の町内流通を確実に促進するためには、町産木材を市場流通から分離して製品化し、建築事業者に提供する仕組みが必要だとの意見があった。

また、10㎡以上使用の要件を緩和し、少量の使用も補助対象にするよう求める意見もあった。

担当課からは、町内に製材所を有する森林組合と連携を図り、町産材活用促進に資する取り組みになるよう検討するとの回答があった。

小学校共通臨時管理費 140万円

志々小学校登校路の舗装修繕工事費。
地元住民から開校150周年の節目として、学校整備にと126万円の寄付があった。意向を尊重し、志々小児童・教職員の安全な通学通勤に資する整備を求めた。

条例

飯南町国民健康保険条例の一部改正

出産被保険者の保険料の減額

世帯に出産被保険者がいる場合、その世帯に賦課する国民健康保険料の所得割額及び均等割額を減額する(出産被保険者の所得割額及び均等割額を免除する)。

令和5年度 飯南町一般会計補正予算(第5号)

【歳出】

電力・ガス・食料品等価格高騰支援給付金支給事業 4408万円

物価高騰が家計に与える影響が特に大きい低所得者世帯(令和5年度市町村民税均等割が非課税の世帯)へ7万円支給する。

早期支給に努めるよう求めた。

令和5年度 飯南町一般会計補正予算(第6号)

【歳入】

普通交付税 1億1342万円増額

これにより、財政調整基金繰入金1億円全額を戻し入れる。

令和5年度 飯南町一般会計補正予算(第6号)

【歳出】

地域振興臨時管理費 725万円増額

来島地区で建設予定の滞在型地域交流施設において、ボーリング調査が必要になったための経費378万円、倉庫、防火水槽を解体撤去することになったための経費346万円。

【審査意見】

滞在型地域交流施設の配置検討図が初めて示されたが、狭い場所であり、冬季の除雪対策、地域住民や商店利用者などへの駐車場確保など周辺への配慮が不十分であると考え。

現在行われている様々な活動への影響を考慮したうえで、施設配置等を再検討し、ボーリング調査を実施されるよう求める。

外出支援タクシー助成事業 20万円増額

助成制度の利用が増加しているため、扶助費を増額する。

子ども等医療費助成事業 316万円増額

助成制度の利用が増加しているため、扶助費及び審査手数料を増額する。

議会活動報告 [10月~12月]

- 10月 3日 議会広報編集委員会 (議会広報誌編集作業)
- 6日 雲南地域スポーツ交流会 (奥出雲町)
- 7日 島根県種畜共進会 (松江市宍道町)
- 10日 議会広報編集委員会 (議会広報誌編集作業)
- 12日 議会広報編集委員会 (議会広報誌編集作業)
- 13日 教育経済常任委員会
- 16日 決算審査特別委員会
- 17日 決算審査特別委員会
- 19日 決算審査特別委員会
- 23日 決算審査特別委員会
- 25日 決算審査特別委員会
- 26日 決算審査特別委員会
- 27日 臨時議会
全員協議会
- 30日 決算審査特別委員会
- 31日 島根県町村議会議長会全議員研修会 (松江市)

- 11月 2日 島根県中央子牛共進会 (松江市宍道町)
- 13~15日 総務厚生常任委員会視察 (岐阜県ほか)
- 14日 教育経済常任委員会
- 16日 島根県町村議会議長会正副議長・委員長研修会 (松江市)
- 17日 決算審査特別委員会
- 20日 決算審査特別委員会
- 24日 全員協議会
議会広報編集委員会 (議会広報誌編集作業)
- 27日 決算審査特別委員会
- 28~29日 全国議長大会・議長研修会 (東京)
- 30日 議会運営委員会 (12月定例会の提出議案、日程ほかの協議)

- 12月 5日 12月定例会：本会議 (町長提出議案の説明、質疑、委員会付託)
- 8日 本会議 (一般質問)
- 11~13日 委員会審査
- 13日 議会運営委員会 (追加提出議案、日程ほかの協議)
- 14日 委員会審査、予算特別委員会、全員協議会
- 15日 12月定例会：本会議 (委員長報告、討論、採決)
- 20日 議会広報編集委員会 (議会広報誌編集作業)
- 22日 雲南広域連合議会定例会 (雲南市)
- 25日 議会広報編集委員会 (議会広報誌編集作業)
- 26日 雲南市・飯南町事務組協議会臨時会 (雲南市)

全員協議会の議題

令和5年10月27日(金)

- ①新型コロナワクチン秋冬接種
- ②脱炭素のまち推進計画
- ③まちづくり座談会
- ④ふるさとの森譲渡
- ⑤いーにゃんP A Y
- ⑥連携寄贈プロジェクト「アリアドネ」

令和5年11月24日(金)

- ①今後の総合経済対策
- ②脱炭素事業の推進
- ③赤名連担地石綿管更新整備

令和5年12月14日(木)

- ①給与の改定
- ②国民健康保険条例の一部改正
- ③生活応援ポイント
- ④広島広域都市圏への加入
- ⑤子育て支援策に関する意向調査
- ⑥教育環境基本方針
- ⑦町内小学校のいじめ事案

挑戦の先に広がる新たな世界

和菓子工房「小立神」

石井洋子さん（八神）

高校から町外で暮らし、県職員を退職後、ご両親の介護のために飯南町で過ごす日が増えた石井さん。住んでみて魅了された田舎暮らしをするためUターン。今では和菓子作り、農業委員会、草刈りが日々の仕事となっています。



趣味の和菓子で地域貢献

楽しいことをしたいと思っていた頃に和菓子とめぐり合いました。和菓子作りは心にゆとりがないとできない。絵を描くのと同じです。一つひとつが芸術作品なので、調子がいい時でないといいい和菓子ができないんです。

これで生活しようと思ったわけではなくて趣味なんです。地元の人のためにできることの一つ。有償ボランティアだと思いついてやっています。

山の中の古民家を使って、一人で住んで好きなことをしている…、趣味で人に喜んでもらえて嬉しいです。

コロナをきっかけに世界が広がる

和菓子作り体験へのコロナ禍の影響は大きかったです。体験ができなくなったら、和菓子の販売をしたいと思いました。周りの人から「営業許可を取るの難しいよ」と言われることもありましたが、保健所に相談したら、条件が緩和されていたため、とても簡単に、お金もそんなにかけずに許可を取ることができました。

その後「ぶなの里」という新しい茶屋に出すようになって、そこで買った人から注文が入るようになりました。お土産やお茶うけとしてだけでなく、結婚式、法事、お祭りの際にご利用いただいています。「和菓子屋は敷居が高いけど、石井さんなら言いやすいし、いろんなリクエストに対応してくれる」と喜ばれています。リピーターさんも多いんです。近くで和菓子を買える、和菓子の文化にふれられるっていいと思いませんか。

農業委員5年生

担い手不足以前の問題があるなど感じています。農地を相続したくないという人が多い。農地を売ってほしいと言われるけど、買い手がなかなかいないし、耕作する人を見つめるのも大変です。地元の人を知っている相続の第一世代ならまだいいですが、お会いしたこともない所有者の農地を守り続けるのはとても難しいと感じています。解決策はみつかっていますが、相談者に寄り添っていききたいと思っています。



和菓子づくり体験

今月の表紙写真



Uターンしてから始めたスマホで、好きな時に好きな映画やテレビ番組を観ているという石井さん。ライン、フェイスブック、インスタグラムなどのSNSも活用されています。買い物や銀行振り込みもスマホです。山の中の古民家でいろいろな人やモノと繋がりが続ける石井さんの世界は、まだまだ広がります。<撮影は晩秋>

《キラリ★飯南人》募集中

「明日を拓く」で取り上げてほしい個人・団体などの情報をお寄せください。議会広報委員が取材に伺います。

《応募先》飯南町議会事務局
0854-76-2190

議会広報常任委員会

委員長：戸谷 ひとみ 副委員長：平石 玲児 委員：伊藤 好晴 高橋 英次 安部 誠也 安部 丘

飯南町議会事務局 島根県飯石郡飯南町下赤名880番地 TEL0854-76-2190 FAX0854-76-2867